

専大 一般入試は合格のチャンス

今年の志願状況 教育ジャーナリスト(専修大学入試アドバイザー) 豊島継男

03年度の一般入試がいよいよ各大学で始まった。東京の私立大学も早いところは2月1日から行われているが、ここ専修大学も1日には地区入試、8日には一般入試が始まった。

【全大学の傾向】

☆経済系統は人気薄

今年は、受験生総数が約86万3000人と推定され(筆者推計)、昨年に比べて約1万3000人~4000人少ない。従って全体的に競争率はやや下がる傾向にあるものの、大型総合大学ではまだまだ厳しい入試が展開されそうだ。

1月末までに集計した私立大学の出願状況を見ると、全体では昨年より1.5パーセント多く志願者が集まっている。これは一部の大型大学に今年からセンター試験による入試が導入されたため、それを除くと、ほぼ昨年並みの志願状況である。ところが、今年は大規模の総合大学で減少の目立つ学部があり、それに代わって中規模大学・単科大学の志願者が増えた。

また、学部別には今年も人文・教養、国際・外国語系統に志願者が集まっていて、ロースクール(法科大学院)計画が具体化する法学系統は昨年ほどの人気が見られない。受験生が最も多い経済系統も、昨年より志願者が減少し、受験し易い状況が生まれている。女子受験生の関心が高い福祉系はここ1、2年、志願者減が続いたが、やや人気を回復した。

理科系は、理学・薬学を中心に勢いを盛り返した。それに工学部のコンピュータ関連学科は、依然として高人気だ。

【専修大学の傾向】

☆国際経済学科が人気

こうした状況の中で、専修大学の一般入試は全体的に昨年より志願者が減少した。センター試験の成績利用の入試と地区入試は、前年より志願者がやや減少の状況だが、一般入試は学部によって合格のチャンスがかなり広がった。

センター試験による選抜は、センター試験の志願者が全国的に増加したがそれを利用する大学も増加したため、志願者が各大学に分散した。国際経済学科と人文学科は志願者増だが全体はやや減となった。

地区入試は今年から日本語日本文・英語英米文学科が加わり、国際経済学科が英語の配点を変更したことにより志願者が倍増した。経営学部も9パーセント以上の増となった。

一般入試については商業学科B方式が高得点2教科から得意科目重視方式に変わったために、志願者が減少し、合格のチャンスが広がった。逆にA方式が志願者増で要注意。また、例年人気の心理学科も今年は減少しているので昨年よりいくらか広き門になっている。

それに対し国際経済学科は、A方式の導入2年目でこの方式が受験生に浸透したこと、国際経済に対する認識が高まったことから志願者が増加した。競争激化で要注意だ。

新設3年目を迎えるネットワーク情報学部のA方式は、昨年13倍を超える競争率となっていたが、今年はやや低くなる。合格チャンスは大きい。

今年特に注目が集まる法学部はやや減。経営学部も、B・C方式は志願者増だが、全体では志願者減となった。

今年の専修大学の一般入試は全体的に見ると志願者が減少し、競争率はいくらか低くなり、易くなったように見える。

確かに合格のチャンスは広がったものの、実質はそうとばかりはいえない。合格可能性の少ない志願者が出願を諦め、実力の接近している者ばかりの出願になってきている。それだけに絶対にケアレスミスは許されない。

☆合否のポイント

合格・不合格の分かれ目は、1点を争う熾烈な戦いになるだろう。受験生は、普段の実力が発揮出来るよう、次の点に注意しよう。

- ①問題が配られたら必ず、受験番号・氏名を記入する。番号の記載漏れ、記入ミスが意外に多い。
- ②問題は易しいものから着手しよう。問題は易しい順に並んでいるわけではない。
- ③問題数を数えて、時間配分を考えよう。一つの問題ばかりに時間をかけ過ぎない。
- ④終了時間前の退出は許されないから、時間があれば何度も読み返す。最後まで時間を使おう。

⑤全部が解答出来なくても諦めない。100点満点の答案はめったにない。小さな得点の積み重ねが合格に導く。
入試はその時々でさまざまな様相を見せる。過去問で傾向をつかんで準備をしても、それとは違う状況が生まれるかも知れない。しかし、そこから本当の実力が発揮される。周りを気にせず、自分のペースで難関を乗り切ってほしい。受験生諸君のご健闘を祈ります。

[2月8日/ニュース専修1面]